

静岡県の大学連携、 そして研究成果を世界に発信！

2019年(令和元年) **11月12日(火) 13:30~**

静岡市産学交流センター B-nest 6F プレゼンテーションルーム

(静岡市葵区御幸町 3-21 電話 054-275-1655)

プログラム

- 13:00~ 受付
- 13:30~ 挨拶 静岡大学 研究・社会産学連携担当 木村雅和 理事 / 副学長
- 13:40~14:30 基調講演

大学での研究の魅力と展望

上村大輔 教授(神奈川大学理事、特別招聘教授、名古屋大学名誉教授)



国立大学法人化以降、様々な嵐が押し寄せた。最も顕著なのが、運営費交付金の削減、国を背負って立つべき若き人材の研究時間の不足であろう。国連の提唱する「SDGs」を意識しつつ、今後進むべき科学技術の方向性と問題点を、静岡大学で達成した過去の研究成果を例にしながら議論して見たい。

- 14:30~14:50 講演 1

学際領域としてのイメージング研究

間賀田 泰寛 教授(浜松医科大学)



現在浜松医科大学ではPETやMRIをはじめ種々のイメージングモダリティを活用して、生体のインビボイメージング研究を動物からヒトへ向かうトランスレーショナル研究として展開している。いずれのモダリティもイメージングに必要な薬剤開発、装置や解析方法の開発など、広い分野の協働が重要である。イメージング研究の実例を紹介しながら本分野における将来展望について概観したい。

- 14:50~15:10 講演 2

開環テトラピロールを基盤とした光利用戦略の包括的な理解とその応用利用

成川 礼 講師(静岡大学)



光合成微生物・シアノバクテリアは開環テトラピロール結合分子を光感知と光合成の両方に利用している。これらの分子の機能解明と、それぞれの分光特性に応じた応用利用について進めているので、その進捗を紹介する。

15:10~15:20 休憩

- 15:20~15:40 講演 3

DNA アプタマーを利用したバイオアナリシス研究

轟木 堅一郎 教授(静岡県立大学)



我々は、抗がん剤などの抗体医薬を特異的に認識する抗イディオタイプ DNA アプタマーの獲得に世界で初めて成功し、これらを用いた種々のバイオアナリシス法を構築した。本講演ではその進捗について紹介する。

- 15:40~16:00 講演 4

自然言語処理と医療応用

狩野 芳伸 准教授(静岡大学)



自然言語処理の関連研究を概観したうえで、音声言語の処理による精神疾患の推定や電子カルテの処理など、講演者の取り組んでいる医療応用の研究について紹介する。

- 16:00~16:20 講演 5

肝炎ウイルスの増殖制御と病原性発現に関わる分子機構

鈴木 哲朗 教授(浜松医科大学)



ウイルスは宿主細胞に侵入し、その細胞が持つ多様な生理機能を利用して遺伝子複製、粒子形成を行う。その過程で細胞環境を攪乱、異常を誘発することが宿主個体への病態発現に繋がる。演者が取り組んでいる B 型肝炎ウイルス、C 型肝炎ウイルスの研究について紹介する。

- 16:20~16:40 講演 6

化学物質応答性核内受容体 CAR を介した肝発がん

吉成 浩一 教授(静岡県立大学)



核内受容体 CAR は、肝臓に高発現する異物応答性の受容体型転写因子である。本発表では、化学物質による肝発がんにおける CAR の役割をその分子機序、発がん感受性の種差との関連性について紹介する。

- 16:40~17:00 討論

- 17:30~ 情報交換会【会場：クーポール会館】

参加費 **無料** 但し、情報交換会は、3,000 円
(当日、シンポジウム受付にてお支払いください)

シンポジウム開催の目的

三大学(静岡県立大学、浜松医科大学、静岡大学 G 研)が中心となって、静岡県内の大学、公的機関、企業の研究者が集まり、異分野交流を含め多様な研究連携を深めるため。

E-mail で以下、事務局へ送信ください

- お名前、所属(学生は学年明記)
- 情報交換会 参加の有無

(期日: 10 月 31 日)

参加
お申込み
方法

お問い合わせ

(シンポジウム事務局)
静岡大学グリーン科学技術研究所
静岡市駿河区大谷 836 担当: 多賀
電話 054-238-4945
E-mail: g-admin@adb.shizuoka.ac.jp

シンポジウム会場へのアクセス



JR 静岡駅北口から徒歩 5 分